

法人(事業所)理念 「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」

支援方針
・生活習慣の確立：手洗い・うがい・歯磨きなどの衛生管理を習慣化し、自立した日常生活を送るための指導を行う。
・体調管理の意識づけ：体調の変化を自覚し、適切に表現できるように支援する。
・危険回避能力の向上：交通ルールの理解や災害時の対応訓練を実施し、安全に過ごせる力を有難大運動の発達支援：ジャンプ・バランス運動・なわとびなどを通して体を鍛える。
・飛躍運動の向上：ハサミや箸の使用、運筆練習を通して手指の巧緻性を高める。
・感覚統合の支援：触覚や聴覚の過敏・鈍麻に配慮し、適切な環境を整える。
・注意力・集中力の強化：短時間のスケジュールやタイマーを活用し、活動の見過しを立てられるよう支援する。
・ワーキングメモリーの向上：順番通りに物事を進める練習や、記憶力を鍛えるゲームを取り入れる。
・問題解決能力の育成：トラブルが起きた際の対応方法を絵カードやロールプレイで学ぶ。
・行動のコントロール：感情のコントロール方法を学び、衝動的な行動を抑える訓練を行う。
・自信の増加と表現力の向上：日常生活で使う言葉を増やし、伝えたいことを適切に表現できるように支援する。
・会話のやりとりの練習：質問と応答のやりとりを繰り返す、双方向のコミュニケーションを促進する。
・ソーシャルスキルトレーニング(SST)：適切な言葉遣いや相手の気持ちを考える力を育む。
・非言語コミュニケーションの強化：ジェスチャーや表情の読み取りを練習し、相手の気持ちを理解する力を伸ばす。
・集団行動のルールを学ぶ：順番を守る、挨拶をする、場に応じた行動をとるなどの社会的スキルを身につける。
・相手の気持ちを考える練習：絵カードやロールプレイを通じて、他人の感情を推測する力を養う。
・協力と譲り合いの習得：グループ活動を通して、他者と協力する経験を積む。
・社会的ルールの理解：公共の場でのマナーを学び、実際に外出活動を行うことで実践力を高める。

営業時間 10時 00分から 17時 00分まで 送迎実施の有無 (あり) なし ※保護者等の就労や妊娠・出産などの家庭事情により、日時・送迎可能な地域等考慮した上で、ご相談させていただきます。

支援内容

健康・生活
■ねらい
①健康状態の維持・改善②生活のリズムや生活習慣の形成③基本的な生活スキルの獲得④生活におけるマネジメントスキルの育成
健康状態の維持・改善、健康の促進
来所時の保護者様からのお子様の健康状態の確認と体温チェック、平常と違った様子などに異変に気づけるようきめ細やかな観察を行う。毎日、運動に取り組み。
生活リズムを整える(日中活動を楽しむための準備として覚醒レベルを上げる)、排泄(決まった時間にトイレに誘導し、排泄習慣を形成する)、履き物(生活の場面で技能を獲得することを促す)、衣類の履脱(生活の場面で技能を獲得することを促したり、朝服に着替えたり)、身の回りを清潔を保つ(生活の場面で、持ち物の整理整頓を習慣化する)、歯磨き(手洗い指導・熱中症について(水分補給)・室内の換気・室温調整・食品の消費・室内の加湿を行う)、食事(食具の操作練習等、手指の運動機能、姿勢の保持の向上を支援する)、異物、クッキング(サンドイッチ・おにぎり・カップケーキ・豚汁・フォー・手打ちうどん・パン・パン・生春巻き・ハンバーガー・クッキーほか)
環境化による生活環境の調整
健康状態の維持・改善、健康状態の把握と対応
健康な心と体を育て、健康で安全な生活を作り出すことを支援する。また、こどもの心身の状態をきめ細やかに確認し、平常とは異なった状態を速やかに見つけ出し、必要な対応をすることが重要である。その際、意思表示が困難であるこどもの障害の特性及び発達の過程・特性等に配慮し、小さなサインでも心身の異変に気づけるよう、きめ細やかな観察を行う。
リハビリテーションの実施
日常生活や社会生活を豊めるよう、お子さま一人ひとりの状態を考慮し、その状態に適した身体的・心理的・社会的支援を行う(お子さまのニーズや状態に適した課題を考案し提供する)。

運動・感覚
■ねらい
①姿勢と運動・動作の基本的技能の向上②姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用③身体の移動能力の向上④保有する感覚の活用⑤感覚の補助及び代行手段の活用⑥感覚の特性への対応
姿勢と運動・動作の基本的技能の向上
運動プログラムを毎日実施。運動サーキット(太鼓橋渡り・マット運動・ジャンプ・ケンケン・トンネルくぐり等)、大なわとび、静と動(自律神経の調整力)、新聞やぶり、絵描き歌、セラピーバテ、粘土、めりえ、積み木つみ、製作等の微細運動。
姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用
プロジェクターを用いた運動ゲーム、ボール遊び、ボルタリング、風船バレーほか。
身体の移動能力の向上
いす取りゲーム、動物園へ行こう、鬼ごっこ、大縄跳び、サッカー教室、雑巾がけ競争、ボール送りゲーム、バランスストーン、ラダー運動ほか。
保有する感覚の活用
触覚やヒジジョントレーニング、両目覚、前庭覚の発達を促進する感覚統合運動のメニュー、ボール・プロジェクターを用いたゲーム、季節の製作、粘土・セラピーバテなど微細運動。
感覚の補助及び代行手段の活用
感覚過敏、感覚鈍麻等への対応。一人ひとりの特性の理解と配慮、環境設定等の支援。
感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防及び適切な行動への対応の支援を行う。

本人支援
認知・行動
■ねらい
①認知の特性についての理解と対応②対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得(感覚の活用や認知機能の発達、知覚から行動への認知過程の発達、認知や行動の手がかりとなる概念の形成)③行動障害への予防及び対応
認知の特性について理解と対応
視覚の優位さ・聴覚の優位さ・注意制御・記憶・イメージ情報・継次処理・同時処理、プランニング等、特性に配慮した方法で支援。視覚や聴覚、触覚などの感覚を十分活用し、認知機能の発達を促す支援。
対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得
注意・集中力の向上(視覚探索課題・神経遊戯・すごろくゲーム・文字探しほか)、指示遂行課題(音声指示で動作する・視覚的な指示で動作する)。
感覚の活用や認知機能の発達
見たものを覚えて再現する(短期記憶)、不空数の名詞を聞いて内容を思い出す(言語的記憶)。
知覚から行動への認知過程の発達
視空間認知の強化(パスル、迷路、間違いない探し・かるたほか)、認知的柔軟性の強化(あるものを違う視点で見てもよいう用途変更課題)、交互にルールを変えるゲーム、順序を変えて考える(ストーリー並べ・工程の再構築)ほか。
認知や行動の手がかりとなる概念の形成
構成(立体パズル)、文字を読む、空間における位置関係、因果関係、多面からの質問への応答、文字を書く(ひらがな・漢字・作文)、時間の概念、規則性の理解(知覚による推理)、数の操作(足し算・引き算・掛け算・割り算…)、なぞなぞ、3Dパズル、物の名前や特徴を説明する、図形模写、折り紙、行動障害への予防及び対応
感覚や認知のかたまり・コミュニケーションの困難性から生ずる行動障害の予防・及び適切な行動への対応の支援。

言語コミュニケーション
■ねらい
①コミュニケーションの基礎的能力の向上②言語の受容と表出③言語の形成と活用④人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得⑤コミュニケーション手段の選択と活用⑥状況に応じたコミュニケーション⑦読み書き能力の向上
コミュニケーションの基礎的能力の向上
ノンバーバルなコミュニケーション・人への関心(アイコンタクト・積極的働きかけ)、人ととの二項関係(情動的共鳴)、三項関係の認識と関わり(人-もの-人)
言語の受容と表出
名詞・動詞・形容詞の概念形成や意味の発達を促す支援。指示理解、語彙表出を促す支援。
言語の形成と活用
語彙数の獲得・統語論的アプローチ(助詞・多語文・構文)。
人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得
共同注意、指差し、身ぶり等の非言語コミュニケーションの活用、質問と応答、心の理論(他者視点の獲得)、会話のキャッチボール、語用論的アプローチ(文脈の理解・コミック会話等の支援)。
コミュニケーション手段の選択と活用
言葉だけでなくイラスト・文字・シンボル等のコミュニケーション手段を選択・活用し子どもに合わせたコミュニケーション方法。
状況に応じたコミュニケーション
言葉の増加と表現力の向上(SST=日常生活で使う言葉を増やし、伝えたいことを適切に表現できるようにトレーニングする)、会話のやりとりの練習(質問と応答のやりとりの繰り返し、困った時にどのように伝えるかの練習)。
読み書き能力の向上
しりとり、ひらがなすごろく、ひらがなの読み、ひらがな並べ、ひらがなのなぞり書き、ひらがなの模写、文章を書く、漢字の書き方練習、5W1H、作文、手紙ほか。

人間関係
■ねらい
①アタッチメント(愛着)の形成と安定②情緒の安定③他者との関わり(人間関係)の形成④遊びを通じた社会性の発達⑤自己の理解と行動の調整⑥仲間づくりと集団への参加
アタッチメント(愛着)の形成と安定
子どもにとっての安全基地となる存在としての支援・環境への安心感(特性に配慮した環境設定)と大人に対する信頼感を通して自己肯定感や自信を育む支援。
情緒の安定
子どもの意見を尊重し、共感的に関わる。
他者との関わり(人間関係)の形成
相手の気持ちを考える練習(絵カードやロールプレイを通じて、他人の感情を推測する力を養う)、協力と譲り合いの習得(協力ゲームなど集団活動を通して、他者と協力する経験を積む)。
遊びを通じた社会性の発達
遊びを通して人の動きを模倣する、大人が介入して行う連発的な遊び(宝探し・大根引き・ボール遊び)、役割分担したルールを守って遊ぶ協同遊び(撃泥ゲーム・ごっこ遊びほか)を通して社会性の発達を支援する。
自己の理解と行動の調整
自分のできることや苦手なことなど、自分の行動の特徴を理解し、自己を肯定的に捉えられる機会を通じて、気持ちや行動を調整し、状況に応じた行動ができるように支援する。
仲間づくりと集団への参加
集団に参加するための手順やルールを理解し、こどもの希望に応じて、遊びや集団活動に参加できるように支援するとともに、共に活動することを通して、相互理解や互いの存在を認め合いながら、仲間づくりにつながるように支援する。

家族支援
保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状態や特性の理解・発達促進に向けた相談支援。
子育ての困りごとへの相談支援。
保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。
兄弟姉妹への相談支援も随時。
移行支援
インクルージョンの推進。
子どもの発達段階に応じた「できること」を増やし、環境の変化に対応できる力を育む。具体的には、本人の特性や進路希望に合わせたステップの目標設定(学校や家庭と連携した支援体制の構築)、学校生活に必要なスキル(時間管理・持ち物の準備・身だしなみ)、社会生活での適応力(公共の場でのマナー・金銭管理・移動手段の習得)、コミュニケーション・対人スキルの強化・学習・必要な場面での助けを求めるスキルの習得、グループ活動を通じた協調性の向上、学校の学習に取り組む習慣づけ等。
地域支援・地域連携
併用事業所や園との支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。
相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。
防災を含めた地域住民や関係機関との連携。
職員の質の向上
個人的な研修参加への受講補助。
本部からのSVO派遣(実際の事業について行動観察後、具体的な支援についての提案)。
虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。
定期的な支援会議の開催。
多職種スタッフの輪番制による支援研修の定期的な実施。

主な行事等
流しそうめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・マジックショー(不定期)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ宿題ほか)。

こぱんはうすさくら堺教室 放課後等デイサービス発達支援 平日午後のプログラム

法人理念	「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援の充実：一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供する。 ・小集団活動の促進：コミュニケーション力や社会性を育むために、小集団での活動を取り入れる。 ・スモールステップの学習：無理のないペースで成功体験を積み重ね、自信を育てる。 ・感覚統合アプローチ：感覚の偏りに配慮し、適切な感覚刺激を提供することで身体の使い方をサポートする。 ・言語発達支援：理解語彙や表出語彙を増やし、コミュニケーションの幅を広げる支援を行う。 ・日常生活動作の習得：生活に必要な動作を自立して行えるよう支援する。 ・協調運動・粗大運動：身体の使い方やバランス感覚を養い、運動能力の向上を目指す。 ・微細運動の発達支援：手先の器用さを育てるために、運筆やボタン掛けなどのトレーニングを取り入れる。 ・音韻意識の向上：言葉のリズムや音を意識し、文字の学習につなげる支援を行う。 ・視覚的支援の活用：スケジュールや課題を見える化し、理解しやすい環境を整える。 ・安心できる環境づくり：児童が安心して活動できるよう、配慮の行き届いた環境を提供する。 ・保護者様との連携：定期的な相談や情報共有を行い、家庭と連携しながら支援を進める。 <p>※このような支援方針を基に、児童一人ひとりの成長を支える環境を整えていきます。</p>
営業時間	10時00分～17時00分

プログラム	平日午後(学校終わり～17時00分)の支援内容(5領域)
生活習慣構造化(常時)	手洗い・体温チェック・荷物の整理・排泄習慣・スケジュールや時間・環境・手順の構造化・衣類の着脱(身支度)など、生活スキルの向上。
個別課題	連絡帳を出して、各児童宿題を始めます。保護者様のニーズを踏まえ、専門職による専門的支援計画(6か月)の内容に即して、各児童ごとの発達状況に応じた発達促進課題を個別・集中的に実施する(課題によっては集団の場や自由遊びの機会を利用して個別・集中的に専門職が関わる場合もあり)。
自由遊び	応用行動分析(ABA)の理論にのっとり、課題への取り組み→好きなおもちゃを選んで遊ぶことの随伴性を持たせることで、課題への取り組みを強化させる。おもちゃの貸し借り、ルールを守っての共同遊びなど、遊びを通じた社会性の促進の機会。二項関係から三項関係への促進の機会。
おやつ(16時00分)	5～6種類から好みのものを選択(アレルギーのあるお子さまは、ご家庭よりご持参いただく)。
運動(16時15分)	運動サーキット(マット運動・太鼓橋渡り・移動ジャンプor移動ケンケン・バランスストーン・ポルタリングなど)
集団活動(16時20分)	5領域(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)のプログラムの実施(スタッフによるオーダーメイドで考案された内容で、日々バラエティに富んだ内容)。
おわりの会(16時50分)	絵本の読み聞かせ・お帰りのご挨拶・保護者様への療育のフィードバック。送迎。

家族支援	
保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援。子育ての困りごとへの相談支援。保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。兄弟姉妹への相談支援。	
移行支援	
<p>・インクルージョン(地域社会への参加・包摂)を推進する観点から、支援の中に「移行」という視点を取り入れ、こどもや家族の意向等も踏まえつつ、保育所等の他のこども施策との併行利用や移行に向けた支援、同年代のこどもとの仲間づくり等の「移行支援」について記載する。</p> <p>・移行支援は、必ずしも保育所等への具体的な移行だけを念頭に置くものではなく、入園・入学等のライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備や、事業所以外の生活や育ちの場である保育所等の併行利用先や学校等での生活や支援の充実、こどもが地域で暮らす他のこどもと繋がりながら日常生活を送ることができるようにすること等、利用児童の地域社会への参加・包摂に係る支援が含まれるものであること。</p> <p>・地域の保育所等や子育て支援サークル、地域住民との交流 等</p> <p>(※)移行支援の視点を持った本人支援や家族支援を行う場合、「項目」の欄は切り分けることなく、「本人支援」「家族支援」と「移行支援」を併記することで差し支えない。</p>	
地域支援・地域連携	
併用事業所や学校等の支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。防災を含めた地域住民や関係機関との連携。行事による交流(ハロウィン・餅つき大会ほか)。	
職員の質の向上	
個人的な研修参加への受講補助。本部からのSVの派遣(実際の事象について行動観察後、具体的な支援についての提案)。虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。定期的な支援会議の開催。多職種スタッフの輪番制による支援研修の実施。	
主な行事等	
流しうめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ箱庭ほか)。	

こぼんはうすさくら堺教室 放課後等デイサービス発達支援 土曜日のプログラム

法人理念	「すべての答えは、児童の中にあります。可能性を見つけてさしあげる集団になろう！」
支援方針	<ul style="list-style-type: none"> ・個別支援の充実：一人ひとりの発達段階や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供する。 ・小集団活動の促進：コミュニケーション力や社会性を育てるために、小集団での活動を取り入れる。 ・スモールステップの学習：無理のないペースで成功体験を積み重ね、自信を育てる。 ・感覚統合アプローチ：感覚の偏りに配慮し、適切な感覚刺激を提供することで身体の使い方をサポートする。 ・言語発達支援：理解語彙や表出語彙を増やし、コミュニケーションの幅を広げる支援を行う。 ・日常生活動作の習得：生活に必要な動作を自立して行えるよう支援する。 ・協調運動・粗大運動：身体の使い方やバランス感覚を養い、運動能力の向上を目指す。 ・微細運動の発達支援：手先の器用さを育てるために、運筆やボタン掛けなどのトレーニングを取り入れる。 ・音韻意識の向上：言葉のリズムや音を意識し、文字の学習につなげる支援を行う。 ・視覚的支援の活用：スケジュールや課題を見える化し、理解しやすい環境を整える。 ・安心できる環境づくり：児童が安心して活動できるよう、配慮の行き届いた環境を提供する。 ・保護者様との連携：定期的な相談や情報共有を行い、家庭と連携しながら支援を進める。 <p>※このような支援方針を基に、児童一人ひとりの成長を支える環境を整えていきます。</p>
営業時間	10時00分～17時00分

プログラム	土曜日/午後(10時00分～17時00分)の支援内容(5領域)※支援内容・プログラムにより時間変動
生活習慣 構造化 (13時50分/常時)	手洗い・体温チェック・荷物の整理・排泄習慣・スケジュールや時間・環境・手順の構造化・衣類の着脱(身支度)など、生活スキルの向上。
その日ごとの特別プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー教室 ・クッキング(サンドイッチ・ホットケーキ・バレンタインチョコ・おにぎり・ハンバーガー・うどん・カップケーキ・流しそうめんなど) ・制作活動(ロボット制作・怪獣制作・うちわ風鈴制作・手づくりランプ・模造紙に絵を描こう・スノードーム・サッシュ作りなど) ・お出かけ(浜寺公園・お花見・大泉緑地・長居公園・天王寺動物園・大阪名物を買に行こう・フットサル観戦・岸和田自然博物館・大仙公園 住吉大社初参り・図書館・博物館など・各種イベントブラレール博物館など)
集団活動 (14時20分)	5領域(健康生活・運動感覚・認知行動・言語コミュニケーション・人間関係社会性)のプログラムの実施(スタッフによるオーダーメイドで考案された内容で、日々バラエティに富んだ内容)。2つの小集団。
特別プログラム	保護者様のニーズを踏まえ、専門職による専門的支援計画(6か月)の内容に即して、各児童ごとの発達状況に応じた発達促進課題を個別・集中的に実施する(課題によっては集団の場や自由遊びの機会を利用して個別・集中的に専門職が関わる場合もあり)。
おわりの会	絵本読み聞かせ・SSTなど(その日の予定により変更あり。)
家族支援	
保護者のニーズを踏まえ、子どもの発達状況や特性の理解に向けた相談支援。子育ての困りごとへの相談支援。保護者同士の交流の機会提供(保護者会の開催)。兄弟姉妹への相談支援。	
移行支援	
<p>・インクルージョン(地域社会への参加・包摂)を推進する観点から、支援の中に「移行」という視点を取り入れ、こどもや家族の意向等も踏まえつつ、保育所等の他のこども施策との併行利用や移行に向けた支援、同年代のこどもとの仲間づくり等の「移行支援」について記載する。</p> <p>・移行支援は、必ずしも保育所等への具体的な移行だけを念頭に置くものではなく、入園・入学等のライフステージの切り替えを見据えた将来的な移行に向けた準備や、事業所以外の生活や育ちの場である保育所等の併行利用先や学校等での生活や支援の充実、こどもが地域で暮らす他のこどもと繋がりながら日常生活を送ることができるようにすること等、利用児童の地域社会への参加・包摂に係る支援が含まれるものであること。</p> <p>・地域の保育所等や子育て支援サークル、地域住民との交流 等</p> <p>(※)移行支援の視点を持った本人支援や家族支援を行う場合、「項目」の欄は切り分けることなく、「本人支援」「家族支援」と「移行支援」を併記することで差し支えない。</p>	
地域支援・地域連携	
併用事業所や園との支援方法や環境調整の情報共有や連携支援。相談支援事業所との情報共有と具体的な支援についての考案、連携。防災を含めた地域住民や関係機関との連携。行事による交流(ハロウィン・餅つき大会ほか)。	
職員の質の向上	
個人的な研修参加への受講補助。本部からのSVの派遣(実際的事象について行動観察後、具体的な支援についての提案)。虐待防止・身体拘束・感染症の必須研修の受講。定期的な支援会議の開催。多職種スタッフの輪番制による支援研修の実施。	
主な行事等	
流しそうめん(夏)・夏祭り(夏)・ハロウィン(秋)・クリスマス会(冬)・餅つき大会(年末)・親子サッカー(不定期)・消防訓練(年2回)・保育キャラバン(近隣の保育園の行事参加)・保護者会(製作・演奏・ビンゴ大会・グループ箱庭ほか)。	